

新聞をつくろう!～さんべの体験を「My新聞」に～

1 趣 旨

- ・ 三瓶青少年交流の家での体験活動を通して、親子で活動することの楽しさを知り、思い出をつくる。
- ・ 新聞の構成などの特徴を知り、自らの体験活動を記事にすることを通して、文章での表現力を高める。(「小学校新学習指導要領」準拠)

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和2年10月17日(土)～18日(日)【1泊2日】
 (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
 (3) 対 象 小学校4年生～5年生とその家族
 (4) 参加者 8家族(24名)
 (5) 日程及び講師

日付	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
10/17(土)			受付	はじめの会 オリエン テーション	昼休 食憩	説明	体験活動	自由時間		夕食・休憩		天体観察会 (サヒメル)	入浴 自由時間
10/18(日)	朝食	退所 点検	「My新聞」作成		昼休 食憩	プ レ ゼ ン	講評	解散					

- ・ 伊東 広路 氏 (日本NIE学会会員)
- ・ 三谷 徹 氏 (新聞教育推進協議会 理事)
- ・ 水野 幸雄 氏 (山陰中央新報社)
- ・ 和田 倫寛 氏 (NIEアドバイザー)
- ・ 伊藤 雅美 氏 (NIEアドバイザー)

3 事業の特色

① プログラムデザインのポイント

- ・ 新規の教育事業ということもあり、前例にとられることなくプログラムを構成することができた。
- ・ 親子での活動を基本とし、当施設が提供している活動プログラムの体験を通して、それを題材とした「My新聞」を共に作りあげることによって、家族の絆を深めた。
- ・ 島根県立三瓶自然館サヒメルの天体観察会を体験活動の一つとして組み込むことで、周辺施設との連携を図った。
- ・ 新聞作成では、新聞に関わる経験と知見が豊富な講師陣を複数名招き、書き方やレイアウトを教わることで、事業の趣旨の実現と質の向上を目指した。

② 運営のポイント

- 新型コロナウイルス感染症の予防のため、次のことを行った。
 - ・ 研修室の換気の徹底。
 - ・ 手洗い及び消毒の徹底。
 - ・ マスク着用の徹底。ただし、3密を回避できる状況(屋外での活動等)または、身体的負荷を伴う活動の際は、マスクを外すことも可とした。
 - ・ 朝と夜の検温に加え、参加者の体調確認をこまめに行った。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

(%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	88	12	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- ・秋の日、よい思い出になりました。子供たちも大きく成長しました。
- ・最近、ほとんどネットで済ませていましたが、実際に体験をした上で、子供と一緒に新聞を作ったことで、勉強やコミュニケーションの面でも、多くの学びがありました。

5 成果と課題

《成果》

- ・「My 新聞」作成に向けて、ボルダリングやカラーリング等の体験活動や島根県立三瓶自然館サヒメルでの天体観察会を楽しみながら、家族のふれあいを深めることができた。
- ・体験活動で得た思い出や感動をもとに5名の講師から指導助言を得ながら、それぞれ個性と工夫にあふれる「My 新聞」を完成させることができた。
- ・新聞完成後は、『「My 新聞」発表会』を行い、参加者一人一人が自分の新聞について頑張った点や工夫した点を発表し、講師から講評をいただくことによって、子供たちも大きな充実感を得ることができた。

《課題》

- ・「書く力」という点で、子供たちにはかなりの個人差があり、不安感をもって参加する保護者もいた。幸い、様々な年齢や実態の子供たちに対して、5名の講師が柔軟に対応、指導してくださった。今後、募集の際には、参加対象の学年をさらに絞り込むなど、配慮を加える必要がある。



(担当：企画指導専門職 毛利 寿)